

お地蔵さんは民話のゆるキャラ。

これも今は昔、山斗の道づらに、四宮河原といふ所にて、神くらべといふ、商人あつまる所あり。その辺に下種のありける、地蔵菩薩を一体つくりてたてまつたりけるを、開眼もせで、櫃にうち入て、奥の部屋などおぼしき所におさめ置きて、世のいとなみにまぎれて、程へにければ、忘にけるほどに、三四年斗過ぎにけり。

1 傍線は読解に役立つ重要語だから辞書で調べる。数字は単なる注釈ではなく読解で意識するポイント。  
2 地蔵盆が京都にあるように、賽の河原で子供を守るといふ伝説からくる子供の神様の信仰がある。道祖神と集合し石像がたくさん作られた。

ある夜、夢に、大路をすぐるものの、声高に人をよぶ声のしければ、「何事ぞ」ときけば、「地蔵こそ、地蔵こそ」と高く、この家の前にて言ふなれば、奥のかたより、「何事ぞ」といらふる声すなり。「明日、天帝尺の地蔵会したまふには参らせ給はぬか」といへば、此小家の内より、「参らんと思へど、まだ目もあかねば、え参るまじきなり」といへば、「かまへて、参り給へ」といへば、「目も見えねば、いかでか参らん」といふ声すなり。うちおどろきて、「なにのかくは夢に見えつるにか」と思ひまはすに、あやしくて、夜明けて、おくのかたをよくよく見れば、此地蔵をおさめて置きたてまつりたりけるを思出でて、見いだしたりけり。「これが見え給にこそ」とおどろき思ひて、いそぎ開眼したてまつりけりとなん。

問1 A、夢の内容はどこまでか。

問2 B、この独白を文意を補って訳せ。